



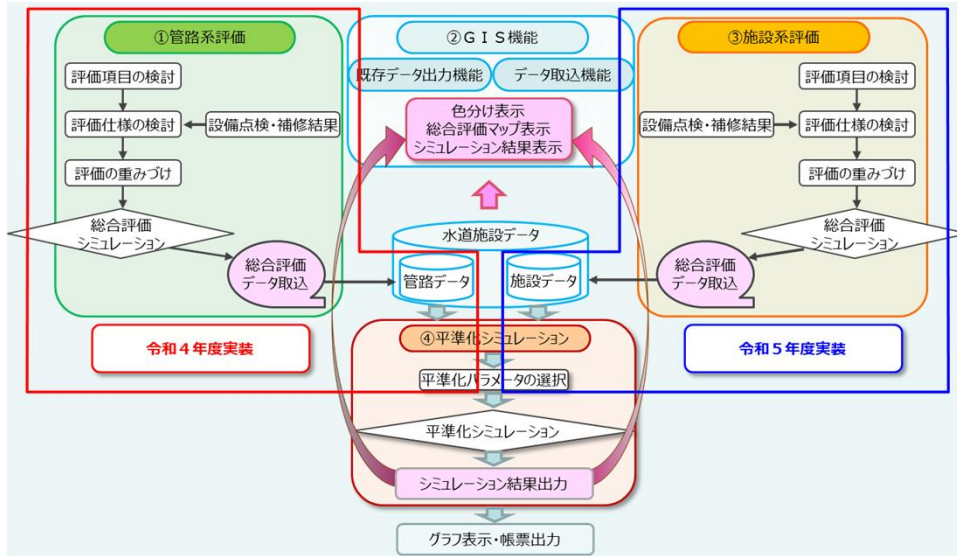
- ❑ 施設の維持管理業務の効率化とアセットマネジメントの実践を目的として導入した施設管理システムを改造し、令和4年度から2ヶ年の計画でアセットマネジメント機能を追加し、現在、実践に向けたデータの蓄積と試用を開始。
- ❑ 当該機能を活用し**最新の施設状態と施設の重要度に基づいたアセットマネジメントを実践**することで、施設のライフサイクルコスト（LCC）を低減させ、限られた資金を適切に投資して、将来の料金の値上げ幅を抑えることを目的とする。

事業概要・事業の進捗状況

- 事業期間：令和4年度～令和5年度
- 事業実施状況
 - ◇令和4年度、令和5年度：管路系、施設系アセットマネジメント機能構築
 - ◇令和6年度～アセットマネジメントの実践に向けたデータの蓄積及び試用開始し効果検証中

導入状況・設置状況

- 施設管理システム（クラウドサーバー上に構築、R2年度に運用開始）に管路系、施設系アセットマネジメント機能を追加。



導入効果の検証

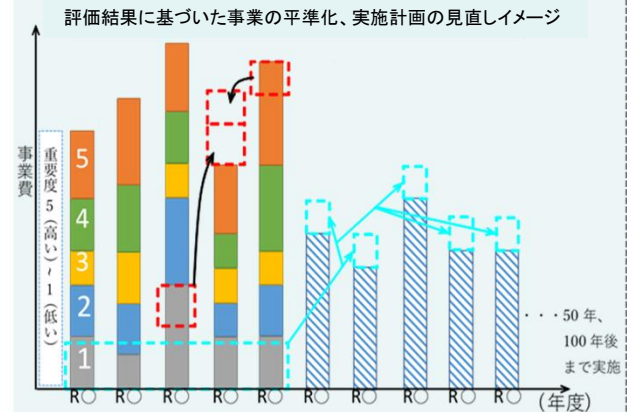
- 導入効果については、データの蓄積を行いながら、最新の施設状態と施設の重要度に基づいた総合評価シミュレーション結果から、事業費平準化シミュレーション機能により、「重要度・優先度を踏まえた更新投資の平準化」を目的に、効果を検証中。

業務の効率化

- 既設の施設管理システム（クラウドサーバー上）に、令和4年度に管路系、令和5年度に施設系のアセットマネジメント機能を追加し、令和6年度より運用を開始した。
 - ◆設備の補修や施設の点検・維持修繕に関する実績の蓄積、それらの参照が可能となった。（施設・設備台帳と点検・維持修繕結果の管理を紐づけ・一元化）
 - ◆点検や委託の結果が健全度（劣化度）評価に適宜自動で反映され、最新の施設状態と施設の重要度に基づいた「工事計画作成」及び「中長期に渡る事業費のシミュレーション、更新需要の見通しの把握」がシステム上で容易に可能となった。（システムによるアセットマネジメントの支援）
 - ◆今まで特定の担当者が行っていた将来の工事計画等に関する業務についてシステムを活用して容易に実施できるようにすることで、業務を標準化し、属人化を防ぐことが一定量可能となった。

他事業者へ共有すべき事項

- 本機能の特色**
 - ◆現状の健全度（劣化度）評価に加え、新たに施設の重要度評価を掛け合わせて事業の優先順位付けをシステム上で実施
 - ◆優先順位の結果から事業の平準化や事業計画の見直しを自動的に実施
 - ◆職員の点検や委託・修繕の結果をアセットマネジメントに自動的に反映させる
- 課題として、一定の業務効率化が可能となった反面、システムの維持に関する業務が増加した。



問合せ先

神奈川県内広域水道企業団 浄水部 浄水課 浄水係
 TEL:045-363-1111 / Email: h26jousui@kwsa.or.jp